

## 平成30年度第8回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（海草・有田会場）

1. 日時 平成30年12月17日（月） 14:00～16:30  
2. 場所 有田川町金屋文化保健センター  
3. 参加者 学校教育関係者 学校運営協議会委員 CS推進員 公民館職員  
PTA会員 市町村教育委員会職員 等  
合計 53名

### 4. 内容

◆講演  
「コミュニティ・スクールへの期待と可能性」  
～学校を核とする人づくりの循環～  
文部科学省 CSマイスター  
鳥取県南部町教育委員会 教育長 永江 多輝夫 氏

- 学校教育・学校を取り巻く状況から
- ・地域に開かれた、信頼され、期待される学校づくりへの取組が重要である。
  - ・子供たちにはこれからの厳しい社会を生き抜く力が求められている。地方創生の観点からも、地域に誇りを持ち、地域課題を克服していく人材の育成が求められている。
  - ・学校が時代や社会の要請に応えるためには、地域との連携・協働は必須の要件である。
  - ・公立学校の設置者は住民である。学校教育を学校だけに任せるのは丸投げである。



- ↓
- ・地域創生に果たす学校改革（学校創生）の役割が大きい。
  - ・「地域の教育力」や「おせ（大人）の想い」と協働する仕組みの構築こそが学校の明日を拓く。 ⇒ コミュニティ・スクール制度

- 「きのくに共育コミュニティ」を基盤とするコミュニティ・スクール移行への10の提言
1. コミュニティ・スクール移行への背景をしっかりと考える。
  2. なぜ、コミュニティ・スクールなのかしっかりと考えること。校長の認識と姿勢が問われている。
  3. コミュニティ・スクールは「学校改革」である。
  4. コミュニティ・スクールの成否は校長次第である。
  5. 学校運営協議会による学校運営方針の「承認」こそが肝である。
  6. 「目指す子供像」について熟議し共有することが最も重要である。
  7. 学校と住民が縦の関係でなく、横の関係でつながること。横の関係とは「協働の関係」である。
  8. 子供たちの未来を拓く熱い思いでつながる学校運営協議会でありたい。
  9. コミュニティ・スクールは「目的」ではなく、「手段」である。
  10. 「努力義務化」はやるかやらないかではなく、いつやるかが問われている。

◆実践発表  
「有田市のコミュニティ・スクールの取組について」  
有田市教育委員会 CS推進員 垣内 淳 氏

- 有田市の学校教育について
- 有田市の「学校教育の方針と重点」に、「コミュニティ・スクールを生かした地域とともにある学校づくり」を位置づけ、市全体でコミュニティ・スクールに取り組んでいる。

- コミュニティ・スクール導入に向けて
  - ・既存の組織を整理、効率化する。
  - ・これまでの「学校評価」の取組を生かし充実させる。
  - ・「社会に開かれた教育課程」に対応する。



↓  
 既存の「学校関係者評価委員会」「学校評議員制度」  
 「学校サポート委員会」を「学校運営協議会」に  
 一本化し地域とのさらなる連携・協働を図る。

- 1年目の取組（H29）
  - ・H28年度より各学校長へ周知し、学校運営協議会規則の作成、学校運営協議会委員の任命を行い、4月1日から市内のすべての学校でスタートした。
  - ・各学校運営協議会の会長が集まる「有田市コミュニティ・スクール連絡協議会」を立ち上げ、各学校の情報交流や熟議等を行っている。  
 （教育長・教育委員会事務局・CS推進員・校長会代表も協議会に出席）

- 2年目の取組（H30）
  - ・「有田市コミュニティ・スクール連絡協議会」を充実する。  
 「熟議」、「協働」、「マネジメント」が充実するよう支援する。
  - ・保護者や地域住民に周知する。  
 「広報ARIDA」や有田市HPへ掲載する。
  - ・校長研修会を開催する。
  - ・「地域とつながる有田っ子プロジェクト（市内小中学校の児童会・生徒会役員が集う宿泊研修）」で、児童生徒も「地域とともにある学校」について考える。



- 成果と課題  
 （成果）
  - ・各学校の状況を見ながら必要なことを考えて徐々に進めることができた。
  - ・「有田市コミュニティ・スクール連絡協議会」が充実してきた。  
 ⇒熟議が活発になってきた。
 （課題）
  - ・小中連携をさらに推進していく。
  - ・コミュニティ・スクールの理解を広げ、深めていく。
  - ・学校だけでなく、地域をどう育てていくか。

↓  
 各学校運営協議会が育っていくためには校長先生の力にかかっている。

## 5. 参加者の声（アンケートより）

- ・「コミュニティ・スクールは学校改革である」「横の関係は協働の関係」が印象に残った。校長がどれだけ学校改革に熱い思いがあるか、コミュニティ・スクールを活用して、どれだけ学校が得になるよう策を練れるかがカギになると思っている。（小中学校管理職員）
- ・校長のコーディネート力を高めなければと感じた。学校支援だけにとどまらず、「子供をどう育てるか」ということを学校と共に考える地域の教育力も大切であると感じた。（小中学校管理職員）
- ・校長自身の意識改革が重要であると思った。地域と学校がお互いに当事者となって共通の目標に向かっていくことの大切さを学んだ。（小中学校管理職員）
- ・学校を支援するだけで終わらず、子供を支援するという意識で進めていけるように、学校運営協議会の内容を工夫する必要があると思った。（教育委員会関係者）
- ・教育委員会の担当がしっかりビジョンを持って校長先生に話ができないといけなと強く感じた。（教育委員会関係者）
- ・学校運営協議会委員としての責任を強く感じた。地域の子供たちのために、頑張っていきたい。（学校運営協議会委員）

## 6. 研修会を通して

- ・学校運営協議会で「目指す子供像」について熟議し、共有することで、地域と学校が協働的に取り組むことができる。そのためにも校長のマネジメント力が必要となってくる。